

設問 1

基幹技能者資格に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 基幹技能者は施工体制台帳に記載できる
- ロ 基幹技能者は監理技術者となることができる
- ハ 基幹技能者は経営事項審査において加点評価(3点)が実施される
- ニ 基幹技能者制度は建設業施行規則で、「登録基幹技能者」として位置付けられた

設問 2

基幹技能者に求められる能力として、誤っているものはどれか。

- イ 安全管理に係わる基本的な知識を有し、作業員に安全作業指導ができる
- ロ 調査、分析結果から対象物の全体像と要点を掌握することができる
- ハ 工事の実情に即した作業手順書の作成ができる
- ニ 品質、コスト最優先で仕事を進め、工期に間に合わせる

設問 3

登録基幹技能者の活用に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 建設業法において、主任技術者の要件として認められていない
- ロ 建設キャリアアップシステムにおいて、能力評価基準の資格要件に位置付けられている
- ハ 公共工事における総合評価落札方式においても評価・活用されている
- ニ 元請企業の優良技能者認定制度等における活用が促進している

設問 4

建築のものづくりの記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 人に頼まれてからつくる
- ② 一人で作ることはできない共同作業である
- ③ 創意工夫の余地があるので、ただ単に設計図通り、指示通りにつくれば良いというわけではない
- ④ 誰でもつくれるものではなく、職人がつくる

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 5

建設キャリアアップシステムに関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 最高位のレベル1が登録基幹技能者となっている
- ロ 能力の評価によって技能者の処遇改善を目指している
- ハ 現場管理の効率化も目論んでいる
- ニ 技能者をレベル分けするとともに、専門工事企業の施工能力等の見える化を目指している

設問 6

OJT教育の特質の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① OJTは上司の仕事そのものである
- ② 成長を促すため、部下のペースよりテンポを速くする
- ③ 先入観が生じないように、外部との接触は規制する
- ④ 失敗はつきものなので、仕事のペースが落ちるのはやむを得ない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 7

能力開発に関する記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 伸ばしやすい部分を伸ばし、成長感を味わえるようにする
- ② ヒトの能力は無限なので、目標レベルは設定しない
- ③ 指導者以上の部下を育てることが理想である
- ④ 能力開発にはレベルの高いライバルの存在が重要である

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 8

OJDで向上させる能力の記述として、誤っているものはどれか。

- イ CSR・法律・社会のルールを守る能力
- ロ 責任感や協調性などの態度能力
- ハ 他人の役に立とうと働く能力
- ニ 他人の様子を見ながら、周囲の変化を待つ能力

設問 9

技能と技術に関する記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 技術とは、多数の人により改善向上し受け継がれる
- ② 技能とは、特定の人が習得した能力である
- ③ 優れた個人の技能を技術に置き換え発展させる
- ④ 技術と技能が協力することで、新しい装置や新しい技術を生み出す

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問10

面談指導のポイントの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 報告を受ける時に指導する
- ロ ねぎらいの言葉や明日への期待の言葉をかける
- ハ 本人の悩みや問題点を聞き取る
- ニ 問題と原因の整理を行い、未達成の部分の責任追及を行う

設問11

アルミニウム合金の特性に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ アルミニウムの比重は鉄の約3分の1程度である
- ロ 融点が660℃と低いため加工し易く、押出型材等がつくりやすい
- ハ 鉄の約3倍の熱膨張がある
- ニ 銅や真鍮の金属と取合い、湿潤化するとアルミが腐食する

設問12

カーテンウォールの揚重作業の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 揚重設備の位置あるいは撤去の稼動日程を把握し、工程計画を立てる
- ロ 作業指揮者、作業制限業務での有資格者の選任等、作業組織を確立する
- ハ 適切な玉掛け作業、確実な連絡合図を実施する
- ニ 10分間の平均風速が風速10m/秒以上の場合は、外部作業を注意して行う

設問13

カーテンウォールの特長に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 建物の軽量化が図られる
- ロ 工期の短縮が可能になる
- ハ 有効面積が広く利用できる
- ニ 耐力壁として使用できる

設問14

開閉方法による区分で、スイングに属する窓はどれか。

- イ 上げ下げ窓
- ロ 開き窓
- ハ 引き分け窓
- ニ 片引き窓

設問15

シーリング工事に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ バックアップ材は、三面接着を防ぐ役目と、充填深さの調整の役目をする
- ロ ボンドブレイカーは、二面接着の確保の役目をする
- ハ プライマーは、接着面とシーリング材の接着性を良くするために使用する
- ニ マスキングテープは、シーリング材が硬化した後、除去する

設問16

建設業法の目的の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 建設業を営む者の保護
- ② 建設業の健全な発達の促進
- ③ 建設工事の適正な施工の確保
- ④ 発注者の保護

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問17

建設業法上の施工技術の確保に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 主任技術者および監理技術者は、建設工事を適正に施工するため、建設工事の施工計画の作成、工程管理、品質管理その他の技術上の管理、施工従事者の技術上の指導監督の職務を誠実に行わなければならない
- ロ 主任技術者または監理技術者は、工事を請け負った建設業者との直接的かつ恒常的な雇用関係が必要である
- ハ 公共性のある施設・工作物または多数のものが利用する施設・工作物のうち、請負金額が2,500万円以上の下請工事については、主任技術者は工事現場ごとに専任でなければならない
- ニ 建設業許可を持たない業者は、主任技術者を配置しなくても良い

設問18

施工体制台帳の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 品質・工程・安全などの施工上のトラブルの発生を防止する
- ロ 生産効率の低下につながる安易な重層下請を防止する
- ハ 不良不適格業者の参入や建設業法違反が無いことを証明する
- ニ 発注者に原本を提出し、工事現場では写しを閲覧できるようにする

設問19

文中の(①)・(②)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

この法律は、労働基準法（昭和二十二年法律第四十九号）と相まって、労働災害の防止のための(①)基準の確立、責任体制の明確化及び自主的活動の促進の措置を講ずる等その防止に関する総合的(②)な対策を推進することにより職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的とする。

- イ ①安全 ・ ②網羅的
- ロ ①危害防止 ・ ②網羅的
- ハ ①安全 ・ ②計画的
- ニ ①危害防止 ・ ②計画的

設問20

粉じん障害防止規則の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 屋内で行うアーク溶接作業は、特定粉じん作業に分類されている
- ② 屋外で行う手持式又は可搬式動力工具を用いて岩石又は鉱物を裁断し、彫り、又は仕上げる作業は、粉じん作業に分類されている
- ③ 粉じん作業者には粉じん作業特別教育が義務付けられている
- ④ 粉じん作業の管理責任はそれぞれの労働者に委ねられている

- イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問21

特別教育の対象となる、足場の組立て等の作業にあたる業務はどれか。

- イ 脚立・可搬式作業台の移動
- ロ 枠組み足場の建地にブラケットを用いて作業床を設置
- ハ 5メートル以上の高さの枠組み足場の設置
- ニ 5メートル以上の高さのローリングタワーの解体

設問22

墜落制止用器具の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 原則フルハーネス型を使用することとされ、安全衛生特別教育が追加された
- ② 着用者の体重及びその装備品の重量の合計に耐えるものでなければならない
- ③ 足下にフック等を掛けて作業を行う必要がある場合は、フルハーネス型を選定するとともに、第一種ショックアブソーバを選定する
- ④ 点検・保守及び保管は、責任者を定める等により確実に行い、管理台帳等にそれらの結果や管理上必要な事項を記録しておく必要がある

- イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問23

金属アーク溶接作業の健康障害防止措置の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① ビル用サッシの施工作業現場は、毎回異なる屋内作業場に分類されている
- ② 2022年4月1日からは、各現場に特定化学物質作業主任者の選任が必要になっている
- ③ じん肺の特殊健康診断に加え、溶接ヒュームの健康診断も受けなければならない
- ④ 作業主任者を配置した場合には、作業場の見やすい所へ掲示しておく必要がある

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問24

建設工事の特徴に関する記述①～④のうち、誤っているものの組合せはどれか。

- ① 見込み大量生産できる
- ② 建設工事における管理を「生産管理」と呼ぶ
- ③ 自然に左右される
- ④ 土地の制約を受ける

イ ①・② ロ ②・③ ハ ③・④ ニ ①・④

設問25

建設工事の工程・原価・品質の相互関連性に関する記述①～③のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間の出来高が増え原価は安くなるが、さらに施工速度を上げると突貫作業となり、逆に原価は高くなる
- ② 原価と品質の関係は、一般的に品質を良くすると原価は高くなるが、品質を下げると原価は下がる
- ③ 品質と工程の関係は、品質を良くすると一般的に時間がかかり施工速度は遅くなるが、施工速度をムリに上げようとする品質は一般的に下がる

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問26

環境保全の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 一般に建設工事は土地の形状や形態を変えることが多い
- ロ 地域住民との間にトラブルが発生しやすく、それが要因となって工程の遅れや工費の増大などを招くおそれがある
- ハ 周辺の自然環境、生活環境に与える影響は工事期間には及ぶが、建設物の完成後には及ばない
- ニ 労働安全衛生の観点から、労働環境についても適切な対策を講じなければならない

設問27

①～④のうち、建設リサイクル法に規定された「特定建設資材廃棄物」に該当しないものはいくつあるか。

- ① アスファルト・コンクリート塊
- ② 建設発生木材
- ③ コンクリート塊
- ④ 金属くず

イ 1 ロ 2 ハ 3 ニ 4

設問28

作業方法の改善の進め方の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 作業の流れにムリ・ムラ・ムダがあるとき
- ② 作業の流れに停滞する箇所があるとき
- ③ 作業に手間がかかり、手直しが多いとき
- ④ 現場の作業方法に危険のおそれがあるとき

イ 1 ロ 2 ハ 3 ニ 4

設問29

施工要領書の周知方法に関する記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 他職種との関連工事については省略する
- ② 安全、品質、工程の管理上の急所を入れて説明する
- ③ 職長だけに説明する
- ④ 設備の設置時期、設置方法については省略する

イ 1 ロ 2 ハ 3 ニ 4

設問30

適切な品質管理を行った結果得られる効果の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

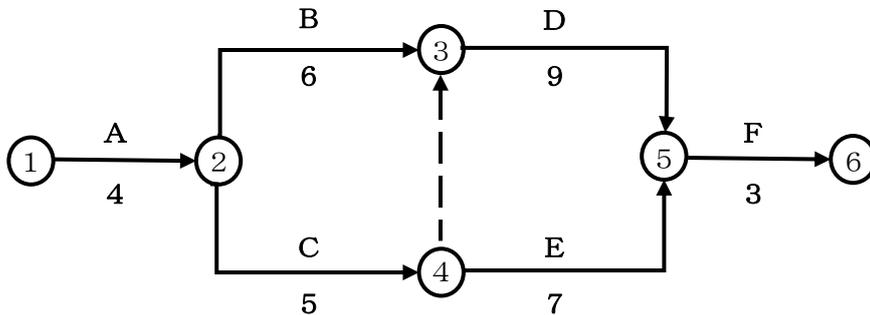
- ① 良いものができる
- ② 工期が長くなる
- ③ 無駄がなくなる
- ④ 原価が上がる

イ 1 ロ 2 ハ 3 ニ 4

設問3 1

下記のネットワーク式工程表に関する記述として、誤っているものはどれか。

アルファベットは作業名を表し、アルファベットの下に数字は所要日数を表すものとする。



- イ このネットワーク式工程表は、アロー型である
- ロ 矢線→は一般的にはアクティビティと呼ばれる
- ハ 結合点は、丸印 (→○→) で表される
- ニ 破線の矢線 (— — →) は架空の作業 (ダミー) の意味で作業の前後関係を示し作業及び時間の要素を含む

設問3 2

次のうち、クリティカルパスが把握できる工程表はどれか。

- イ バーチャート
- ロ ガントチャート
- ハ 斜線式工程表
- ニ ネットワーク式工程表

設問3 3

次のうち、工程表を作成する上で必要のないものはどれか。

- イ 作業主任者の選任
- ロ 施工順序の決定
- ハ 全体工程の把握
- ニ 主な作業の分類

設問3 4

バーチャートを作成する手順のうち、日程の割り振りについて以下で説明している方法は何というか。

「施工順序に従って最初の作業の着手日と終了日を定め、同様に各作業の着手と終了日を定める。他の作業の途中で着手できるものは並列で記入し、最終の作業が完成期日内に納まるように作成する方法。」

- イ 順行法 ロ 逆算法 ハ 重点法 ニ 正攻法

設問35

工程計画立案にあたり、検討事項に必要なものはどれか。

- イ 各工程（各部分工事）の施工順序の決定
- ロ 各工程（各部分工事）に必要な作業可能日数
- ハ 機械や設備の規模・台数
- ニ 自主検査表の作成

設問36

所要作業日数と作業可能日数に関する記述として、正しいものはどれか。

- イ 所要作業日数は、1日当たりの最大施工量を基準に算出する
- ロ 作業可能日数は、所要作業日数より少ない
- ハ 所要作業日数は、1日当たりの平均施工量を基準に算出する
- ニ 作業可能日数は、降水日数や積雪日数等の自然条件による影響を受けない

設問37

コンテナ輸送の利点に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 反復利用により、梱包費の削減が図られる
- ロ 搬入・揚重・小運搬の能率が向上する
- ハ 製品混載搬入でもスムーズな受け入れ、取り出しができる
- ニ 保管時の荷崩れ予防等の安全性が向上する

設問38

保管管理に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 標識・カラーコーン・ロープ等の囲いにより保管場所を明示しておく
- ロ 長尺材等は床上に枕木を敷き平置き保管する
- ハ 製品の取付順序を考慮して配列保管する（先出し・後入れ）
- ニ 保管中のコンテナは、急な移動に備え車止めを解除しておく

設問39

揚重計画に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 資材の大きさ・重量・数量等から荷姿・梱包方法を検討する
- ロ 資材によってどの揚重方法や機器が最適か検討する
- ハ 揚重機器の効率を考慮して計画する
- ニ 資材の保管場所は職長と十分に打合せして決定する

設問40

立会検査確認事項として、誤っているものはどれか。

- イ 製作図通り製作されているか
- ロ 仕様書より社内基準に合致して製作されているか
- ハ 工事上の作業性、保守上の使い勝手を考慮して製作されているか
- ニ 試験成績の数値は規格に合致しているか

設問41

受入検査に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 搬入された資材に破損や変質等の異常がないか
- ロ 納品書の内容と搬入された資材の仕様の相違や数量の不足がないか
- ハ 本体資材に問題がなければ付属品については検査を省いてもよい
- ニ 購入依頼した内容と納品書等の内容が一致しているか

設問42

i-Construction に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 施工時期の平準化
- ロ 作業工程の複雑化
- ハ ICT技術の全面的な活用
- ニ 現場作業の効率化

設問43

コストダウンの着眼点として、誤っているものはどれか。

- イ 管理の目を粗くする
- ロ 合理的なケチをすすめる
- ハ 見えない原価に気をつける
- ニ 常に生産性の向上に努力する

設問44

文中の（ ）に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

原価管理とは、発注者が満足する工事の質を維持し、定められた工期内で（ ）を確保するために工事費を管理する業務をいう。

- イ 技能労働者
- ロ 労務費
- ハ 適正な利潤
- ニ 交際費

設問45

文中の（ ）内に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

原価要素とは、原価を構成する要素であり、材料費、（ ① ）、経費の三要素に分類するのが一般的だが、建設工事ではこれらに（ ② ）を加え、「建設業の4原価要素」と呼ぶ。

- イ ①労務費 ・ ②法定福利費
- ロ ①法定福利費 ・ ②労務費
- ハ ①外注費 ・ ②労務費
- ニ ①労務費 ・ ②外注費

設問46

文中の（ ）に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

建設業者は、建設工事の請負契約を締結するに際して、工事の内容に応じ、（ ）の材料費、労務費その他の経費の内訳並びに工事の工程ごとの作業及びその準備に必要な日数を明らかにして、建設工事の見積りを行うよう努めなければならない。

（建設業法第20条）

- イ 工事工程ごと
- ロ 工事の種別ごと
- ハ 作業手順書ごと
- ニ 作業者ごと

設問47

実行予算に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 実行予算とは、受注後に、各種の具体的な施工計画を立て、その工事を実行するのに必要な費用を出来るだけ精密に予測・算出したもの
- ロ 実行予算は、施工計画とは別で作成する
- ハ 実行予算は、発注する枠組みで作成する
- ニ 利益を追求する企業経営上の理由から、受注金額から確保すべき粗利益をあらかじめ差し引いた金額範囲に収まるように実行予算を組む必要がある

設問48

見積書の役割として、誤っているものはどれか。

- イ 企業の存続に必要な受注を確保するための文書の中でも特に重要なものの一つである
- ロ 工事範囲の不確定など、契約の条件があいまいであるとその見積書の内訳記述内容も不明確になりがちである
- ハ 見積書の書式は各社各様のひな型的なものがあるが、元請建設会社が内容、様式を指定することはない
- ニ 見積書の有効期限や条件変更時の取り扱いなどの見積条件をはっきりさせた上で見積書を書くことが基本である

設問49

新築住宅の「構造上主要な部分」「雨水の浸入を防止する部分」について、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」で義務付けられた瑕疵担保期間はどれか。

- イ 2年
- ロ 5年
- ハ 10年
- ニ 15年

設問50

品質管理に取り組むための基本的な手法に当てはまらないものはどれか。

- イ リスクアセスメント
- ロ ヒストグラム
- ハ チェックシート
- ニ パレート図

設問51

設計品質の決め方には二つの考え方があるが、「仕様規定」ともう一つはどれか。

- イ 技術規定
- ロ 安全規定
- ハ 施工規定
- ニ 性能規定

設問52

文中の（ ）に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

「後工程はお客様」「品質は（ ）で造り込む、検査では造れない」

- イ 経験
- ロ 真心
- ハ 工場
- ニ 工程

設問53

品質管理における「三現主義」の記述として、正しいものはどれか。

- イ 事実を見きわめるために現場には3回以上通うことが大切との考え方である
- ロ ものごとを調べる基本で「現象・現状・現認」の3つの現を取って三現主義という
- ハ 一人で3つ以上の現場について品質管理を担当する力量を持つことである
- ニ 一般的には、「現場・現物・現実」の3つの現を取って三現主義という

設問54

品質管理のサイクルでは $P \Rightarrow D \Rightarrow C \Rightarrow A$ がよく使われているが、Pを表す語句はどれか。

- イ 計画
- ロ 場所
- ハ 図面
- ニ 水準

設問55

墜落転落災害防止対策の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 足場の解体・組立て作業を行う時には、手すり先行工法の導入に努めるとよい
- ② 脚立の正しい使い方には、天板に乗らない、身を乗り出して作業をしない、脚立を背にして降りない、昇降時に手をあけておく、などがある
- ③ はしご上で作業をする時には、はしごの上端を60cm以上突出させ、足元が滑らないようにしてはしごを固定する
- ④ 高さが2m以上のところでの作業通路は、幅が40cm以上とし、かつ、床材のすき間が3cm以下、手すりは床面からの高さは85cm以上で、中さんと必要に応じて幅木を設ける

- イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問56

熱中症が疑われた時の応急対策の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 休憩所のクーラーの前に、終業時まで一人で寝かせておいた
- ② 水を飲ませたら吐いてしまったので、スポーツドリンクに変更して飲ませた
- ③ 意識がはっきりしていたので、水の入ったペットボトルを自分で持たせて与えた
- ④ こむら返りを発症しているので、現場に準備していたAEDを使って治療を試みた

- イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問57

ヒューマンエラーの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 集団欠陥とは、元請から職長、職長から作業員への指示が正確に伝わらないコミュニケーションエラーのことである
- ロ パニックになると脳は正常に働かずに、ミス連鎖を犯しやすくなる
- ハ 場面行動本能とは、ヒトの意識が瞬間的に一点に集中し、周囲が見えずに反射的に危険な行動をしてしまう本能のことである
- ニ ヒトの危険意識が単調な反復作業や準備作業の時に低下して、労働災害につながることもある

設問58

労働安全衛生法に定められていない教育はどれか。

- イ 新規雇入者に対する教育
- ロ 作業内容変更時における教育
- ハ 職長に対する教育
- ニ 経営首脳者に対する教育

設問59

作業員の遵守義務の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 法令で資格が必要と定められた作業については、有資格者が見本を見せてから作業を引き継がなければならない
- ② 現場では、常に安全な作業環境を保たなければならない
- ③ 自分勝手な判断で、保護具を使用せずに作業をし、労働災害にあったときには、作業員の責任は重大である
- ④ 自分自身はもちろんのこと、仲間の安全を確保するため、さまざまな措置を講じなければならない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問60

リスクアセスメントの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 優秀な職長が、経験に基づいて優先と思われるものからリスク低減対策を立て、対策を実施するとよい
- ロ リスクアセスメントの実施で、予防の安全管理、自主的な安全活動等ができるようになる
- ハ リスクはゼロにはならないので、残留リスク対策として個人が気をつけなければならない部分がある
- ニ リスクアセスメントを実施する時期は、機械・設備の設置時や変更時、作業手順などの作成時や変更時に行うとよい